



人間が声を出せるのはなぜ

声は声帯で出している

声は、のどのおくにある声帯という膜を、息でふるわせて出しています。声帯は、男性の場合、のどぼとけのおくにありますが、のどぼとけのあまりはっきりしない女性でも、同じような位置にあります。

声帯で声が出るのは、紙を口にあててふくと、紙がふるえて音が出るのと、同じようなしくみです。声帯はふだんはかくれていますが、声を出すときにだけ、のどの中の空気のとおり道に出てくるしくみになっています。このため、息をするときには声が出ないのです。

話すために大切な口と舌、そして脳

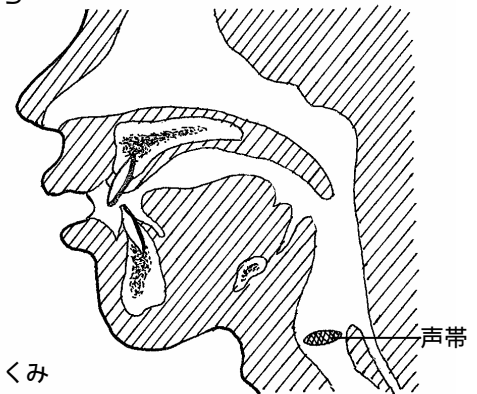
話をするためには、のどのおくにある声帯を息でふるわせて、声を出します。

しかし、話すためには、ただ、声を出すだけではなく、ことばにしなければなりません。

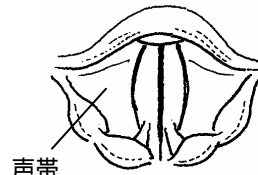
声をことばにするには、口と舌が大切です。口と舌を動かしているいろいろな形にすることによって、声をことばにすることができるのです。

また、声帯をコントロールしているのは脳です。脳の運動性言語中枢というところが、その役目をしており、この部分に傷などがつくと、ことばを聞いて理解できても、しゃべることができなくなります。（監修・保志 宏）

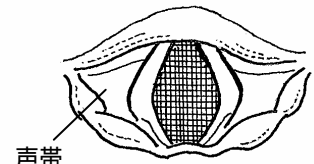
声帯の
あるところ



声帯のしくみ



声帯
声を出すときは
閉じている



声帯
呼吸するときは
開いている

